

**変化するインプラント治療のスタンダード**

— 上顎破壊へのリスクファクター —



**2009.7.26 Sun Tokyo Midtown Hall A, Hall B ◆ am 9:30 ~ pm 5:30**

東京ミッドタウン ホールA、B

**Guest Speaker**

※講演者は順不同です。



**後藤 昌昭 先生**  
佐賀大学医学部  
歯科口腔外科学講座 教授



**林 揚春 先生**  
東京都新宿区開業 優ビル歯科医院 院長  
日本顎咬合学会副会長  
日本大学松戸歯学部 臨床教授



**武田 孝之 先生**  
東京都千代田区開業  
医療法人アイ・ティ会 武田歯科医院 理事長



**荒垣 一彦 先生**  
兵庫県神戸市開業  
荒垣歯科医院 院長



**井上 孝 先生**  
東京歯科大学  
臨床検査学教室 教授



**末竹 和彦 先生**  
長崎県松浦市開業  
医療法人社団 末竹歯科医院 理事長



**鈴川 雅彦 先生**  
広島県広島市開業 AICデンタルクリニック院長  
日本臨床歯周病学会 理事・指導医・認定医



**坪井 陽一 先生**  
元スウェーデン イエテボリ大学客員教授  
医療法人メディカルライフクオリティ  
口腔外科部長



**長谷川 嘉昭 先生**  
東京都中央区開業  
医療法人社団 長谷川歯科医院  
日本橋歯周病インプラントセンター 理事長



**松坂 賢一 先生**  
東京歯科大学  
臨床検査学教室 准教授



**森田 耕造 先生**  
大阪府大阪市開業  
森田歯科医院 院長



**Hong Chan Lee 先生**  
CHICAGO-Lamplant Dental Clinic 院長



**木村 健二 先生**  
千葉県松戸市  
有限会社協和デンタルラボラトリー  
代表取締役



**桜井 保幸 先生**  
奈良県生駒市  
有限会社ファイン 代表取締役



**上原 芳樹 先生**  
奈良県生駒市  
有限会社ファイン 取締役



**牧江 寿子 先生**  
奈良県生駒市  
木原歯科医院 歯科衛生士



**國武 芙美代 先生**  
広島県広島市  
AICデンタルクリニック 歯科衛生士

# 変化するインプラント治療のスタンダード

## ▶ 上顎破壊へのリスクファクター ◀

白鷗35周年記念シンポジウムを2009年7月26日に開催いたします。今回は参加者一体型のシンポジウムを目指しており、参加された先生方のご意見をセッションに反映するための企画をあらゆるシーンで準備しています。シンポジウムの内容は前半を「基礎系ステージ」、後半を「臨床系ステージ」と大きく分け、各ステージで、複数のシンポジストが共演しながら、それぞれのテーマを多面的に検証したいと考えています。過去から現在までのインプラント治療の変遷、そして今後どのように変化していくのか、あるいは変化していくべきかを提示していきます。

インプラント治療の流れを「Planning(治療計画)」「Surgery(外科処置)」「Healing(治癒期間)」「Prosthesis(補綴処置)」「Maintenance(メンテナンス)」の5段階に大きく分け、各段階で重要となる要素を整理してみたいと考えています。特に「Healing(治癒期間)」は、これまでインプラント治療の通過期間としてあまり重要視されていなかったのが現実ですが、患者の立場で考えると「Healing(治癒期間)」においても、機能性や審美性を確保しておきたいのであり、とても重要で複雑な治療段階であるといえます。また「Maintenance(メンテナンス)」においては、衛生士が担う領域と歯科医師が担当すべき領域を整理し、長期間にわたる機能維持の実現を目指さなければなりません。臨床系ステージにおいて、これらの「Healing(治癒期間)」や「Maintenance(メンテナンス)」にも焦点をあてた“患者のためのインプラント治療”を提案したいと考えています。

本シンポジウムのテーマの背景にあるのは、「経年的な口腔内の変化に対応しうる歯科医療」です。インプラント治療の普及に伴い、歯科医療のゴールは大きく変化しつつあります。しかし一方では、無菌顎や多数歯欠損症例において、下顎のみへの偏ったインプラントの応用によって、経時的に上顎の組織が破壊されていくという症例も増加しつつあります。このような現象に歯止めをかけるためには、上顎への適切なインプラントの応用によって口腔内の力のバランスを整える必要があります。つまり、脆弱な上顎骨を守るためのインプラント治療が求められているのです。

本シンポジウムでは、現在のインプラント治療に足りないもの、求められているものを浮き彫りにし、インプラント治療の新たなコンセンサス形成への提言をしていきたいと考えています。

佐賀大学医学部 歯科口腔外科学講座 教授 後藤 昌昭

### Hall A

**基調講演** 9:30～10:05

#### ▶ 変化するインプラント治療のスタンダード

武田 孝之 先生

多数歯欠損や無菌顎症例へのインプラント治療においては、インプラントの応用によって口腔内の力のバランスが崩れ、上顎を中心に負荷が集中し骨吸収などが顕著に進行したケースもみられるようになってきました。インプラントの長期機能維持を考えると、口腔内に発生する力のコントロールは最重要課題といえます。口腔内の機能圧を上下顎で適切に緩衝するためには、上顎と下顎各々の骨構造を理解した上で、インプラントの治療計画や補綴設計を考える必要があり、特に下顎と比べて骨質や構造も脆弱な上顎を保護するためのインプラント治療が求められています。

**基礎系ステージ** 10:05～12:20

#### 骨系セッション

主に上顎と下顎の骨組織の違いを念頭に置いたインプラント治療を検証します。「上顎骨へのインプラント治療はなぜ難しいのか?」「上顎と下顎のバランスが適切なインプラント治療とは?」「長期的に口腔組織を保護するインプラント治療とは?」などのテーマに焦点をあててセッションを進めていきます。

**パネリスト** 林 揚春 先生 松坂 賢一 先生 井上 孝 先生  
後藤 昌昭 先生 武田 孝之 先生

#### ▶ インプラント治療における上顎破壊へのリスクファクター

Main speaker 林 揚春 先生

#### ▶ 解剖学的見地から検証した上下顎の違いについて

Main speaker 松坂 賢一 先生

#### 軟組織系セッション

インプラント周囲粘膜の検査を行う上で、それらの粘膜が通常はどのような状態にあり、どのような性質をもってフィクチャーや上部構造の周囲に存在しているのかを理解することは重要なことです。さらには、上顎洞底挙上術などによって剥離・挙上された上顎洞粘膜は、どのような状態にあるのかなど、インプラント治療によって処置が施された軟組織全般の治癒や病理について検証します。

**パネリスト** 鈴木 雅彦 先生 長谷川 嘉昭 先生 井上 孝 先生  
林 揚春 先生 松坂 賢一 先生 後藤 昌昭 先生  
武田 孝之 先生

#### ▶ インプラント周囲粘膜の性質とメンテナンス

Main speaker 鈴木 雅彦 先生 長谷川 嘉昭 先生

#### ▶ インプラント周囲の軟組織について

Main speaker 井上 孝 先生

Lunch 12:20～13:20

**臨床系ステージ** 13:20～17:20

インプラント治療の流れを「Planning(治療計画)」「Surgery(外科処置)」「Healing(治癒期間)」「Prosthesis(補綴処置)」「Maintenance(メンテナンス)」の5つのステージに分け、少数歯欠損症例から多数歯欠損症例、無菌顎症例までを各々のステージで検証します。また、上顎洞底挙上術やリッジエキスパンションなどの外科テクニックを応用した場合に、その後のHealing(治癒期間)やProsthesis(補綴処置)をどのように考えて処置をすべきか、症例の規模や部位によって各ステージをどのように考え、どのように対処するべきなのかを明確にします。

#### セッション 1 抜歯即時埋入インプラント～少数歯欠損

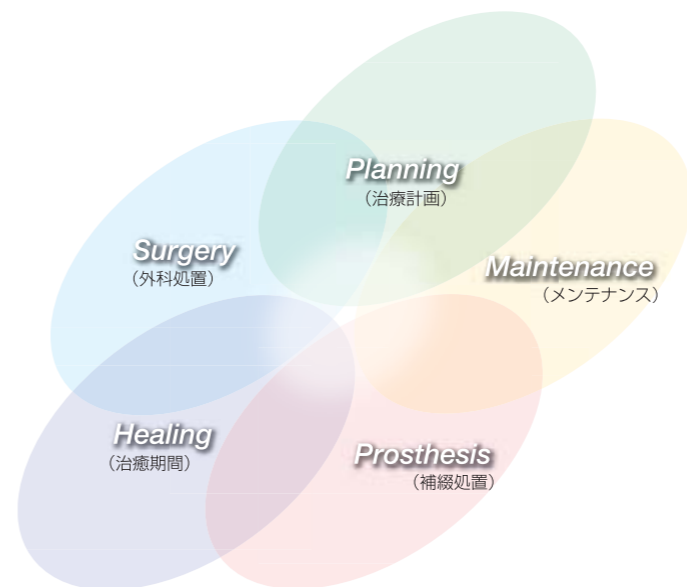
**パネリスト** 森田 耕造 先生 荒垣 一彦 先生 鈴木 雅彦 先生  
長谷川 嘉昭 先生 桜井 保幸 先生 林 揚春 先生  
武田 孝之 先生

#### セッション 2 上顎インプラント治療に必須となる外科テクニック

**パネリスト** 末竹 和彦 先生 坪井 陽一 先生 Hong Chan Lee 先生  
後藤 昌昭 先生 森田 耕造 先生 荒垣 一彦 先生  
鈴木 雅彦 先生 長谷川 嘉昭 先生 林 揚春 先生  
武田 孝之 先生

#### セッション 3 多数歯欠損・無菌顎症例

**パネリスト** 林 揚春 先生 武田 孝之 先生 桜井 保幸 先生  
木村 健二 先生 森田 耕造 先生



### Hall B

**技工士セッション** 9:30～12:20

#### ▶ 上部構造のエラーやトラブルをなくすために

**パネリスト** 荒垣 一彦 先生 桜井 保幸 先生 上原 芳樹 先生  
木村 健二 先生

インプラント治療における上部構造をデザインする場合に、まず第一にマテリアルの選択が重要となってきます。マテリアルの選択には、審美性、耐久性、生体親和性などと様々な要素が存在しますが、長期的に考えると口腔内の変化に対応でき、インプラント体や残存歯をはじめとする口腔内組織を保護できるということも重要な要素です。

本セッションでは、インプラント補綴を長期的に機能維持させることを前提に、口腔内の変化に伴った上部構造の修正やデザイン変更も視野に入れ、以下の項目を中心に検証します。

- ・マテリアルの選択
- ・マテリアルとフレームデザイン
- ・ジルコニアの種類と有用性（特に修正・修理時のエラーの軽減）

Lunch 12:20～13:20

**衛生士セッション** 13:20～16:00

#### ▶ すぐに始められる衛生士主導のインプラントメンテナンス

**パネリスト** 國武 芙美代 先生 牧江 寿子 先生 鈴木 雅彦 先生  
井上 孝 先生

インプラントのメンテナンスには、歯科医師がコントロールすべき領域と歯科衛生士が主導となって管理する領域があります。

本セッションでは、歯科衛生士主導のメンテナンスに焦点をあて、すぐに役立つインプラントメンテナンスの方法や手段、考え方を整理するとともに、以下の項目を中心に検証します。

- ・インプラント周囲炎はなぜ起こる?
- ・インプラント周囲組織の検査法
- ・インプラント周囲へのブローピングは?
- ・メンテナンス中の留意点（インプラント周囲炎を起こさせない工夫）

Hall B 会場では Hall A 会場のドクターセッションの内容を大型モニターにてご視聴頂けます。